

氏 名 いく 田 しゅう じ

所 属 ・ 職 名 附属教育実践総合センター・教授

研究室電話番号 0742-27-9242
(ダイヤルイン・FAX 兼用)

電子メールアドレス ikuta@nara-edu.ac.jp

最終学歴及び学位 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定退学(1986)
教育学修士(京都大学 1982)

所 属 学 会 等 日本社会教育学会, 日本異文化間教育学会, 日本教育学会

専 門 分 野 人権教育・社会教育



研究と教育について

研究テーマの一つは、「教育への人権的アプローチ」という視点からの日本および海外で行われている人権教育の意義・役割と問題点の解明である。第二には、社会(的)教育の理論、方法、実践などについての検討であり、とりわけ青年職業援助、ユースソーシャルワークなどにみられる、社会的排除と統合への対応について日本とドイツの比較を行っている。

人権問題の授業では、学校の中での人権に関わる問題について取り扱っている。例えば、校則をどうみるか、子どもの権利条約と学校、いじめのワークショップ、セクシュアル・ハラスメントのグループワークなど、参加する学生が主体的に問題に取り組むようにデザインしている。総合演習「学校・地域と人権教育」は、学校や社会教育現場を訪問し、人権教育の推進状況や課題について聴き取りを行い、その結果をまとめる作業を行っている。教育人権アプローチ特講は、差別と偏見の人権教育から可能性と存在の人権教育への転換の必要性和その論拠について講義するとともに社会教育・福祉施設、裁判所などを見学する。教育人権アプローチ演習は、特定の調査対象(夜間中学、中国帰国者など)について重点的に検討・分析し、報告書にまとめる。

主 な 研 究 業 績

- ・『差別・偏見と教育 - 人権教育への疑問 - 』(部落問題研究所 2001)
- ・『統合ドイツの異文化間ユースワーク』(大空社 1998)
- ・「人権教育へのアプローチ - 日本の性格との関連において - 」(『奈良教育大学附属教育実践総合センター研究紀要』第14号 2005)
- ・「教育への人権論的アプローチ - 差別と偏見の人権教育から可能性と存在の人権教育へ - 」(『部落問題研究』第150号 2000)
- ・「ドイツにおける 異文化間青少年活動の模索 - 偏見の克服 - 」(『日本社会教育学会紀要』第31号 1995)

主な授業担当科目

人権と教育(教養科目), 学校・地域と人権教育(教職科目・総合演習), 教育人権アプローチ特講(総合教育課程・教職科目), 教育人権アプローチ演習(総合教育課程・教職科目), 人権教育特論(大学院), 人権教育演習(大学院)

学 会 活 動

社 会 的 活 動 社会教育推進全国協議会全国委員
岡山部落問題研究所紀要『人権と社会』編集委員
なら県民教育研究所事務局長
なら生涯学習研究会呼びかけ人

講 演 の テ ー マ 「差別・偏見と人権教育」, 「これからの人権学習」